

新入生のボランティア意識調査 ―「2015 年度ボランティア活動に関わるアンケート」から―

1. 調査の目的と概要

聖学院大学ボランティア活動支援センターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として、今年で3回目となる本アンケートを実施した。実施にあたり、昨年度の回収率の良さを活かし、新入生オリエンテーション（NSO）開催時に調査用紙を配布した。

2015 年度入学者 467 名のうち出席者が 429 名であった。この 429 名にアンケート用紙を配布し、385 名から回答を得られた（回収率 90%/前年度 91%）。

今後さらに魅力的な活動マッチングや新規プロジェクト立ち上げへの支援などに活かしていくため、このアンケート結果を活用する。

2. 調査結果 ※小数点以下は四捨五入で算出

（1）大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前に自発的にボランティア活動に参加した経験があるか尋ねたところ（図1）、経験有りとの回答が 42%（160 名）で、経験なしの回答は 58%で（225 名）だった。

図1-1. 大学入学以前の自発的なボランティア活動経験

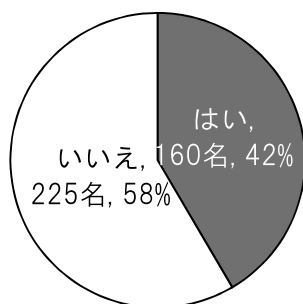
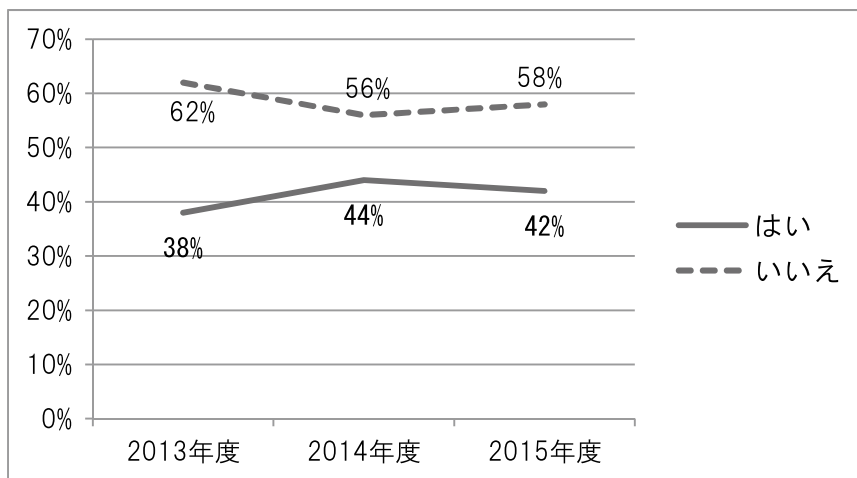


図1-2. 大学入学以前の自発的なボランティア活動経験:3 年間の推移



(2)大学時代にボランティア活動に参加したいか

本年度、活動希望者は全体の 70% (270 名) となり、活動参加を希望しない者の 30% を大きく上回る結果となった (図2)。2013 年度と比較すると 7% の上昇を見せ、昨年度からは +5 ポイントとなり、毎年徐々に活動を希望する学生が増加している。新入生のうち、7 割の学生が在学中にボランティア活動に参加したい意欲があることがわかった。

図2-1. 大学時代にボランティア活動に参加してみたいと思うか

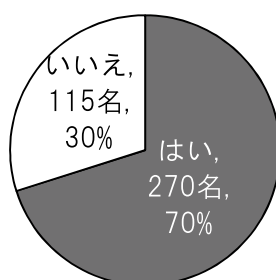
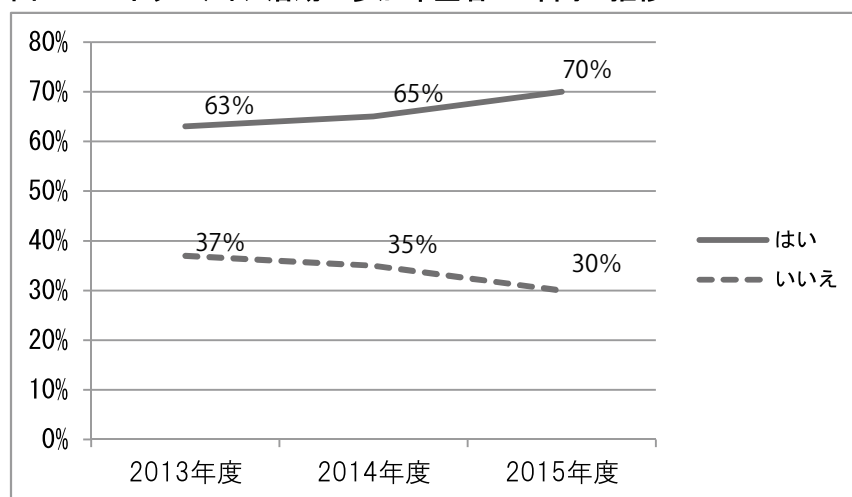


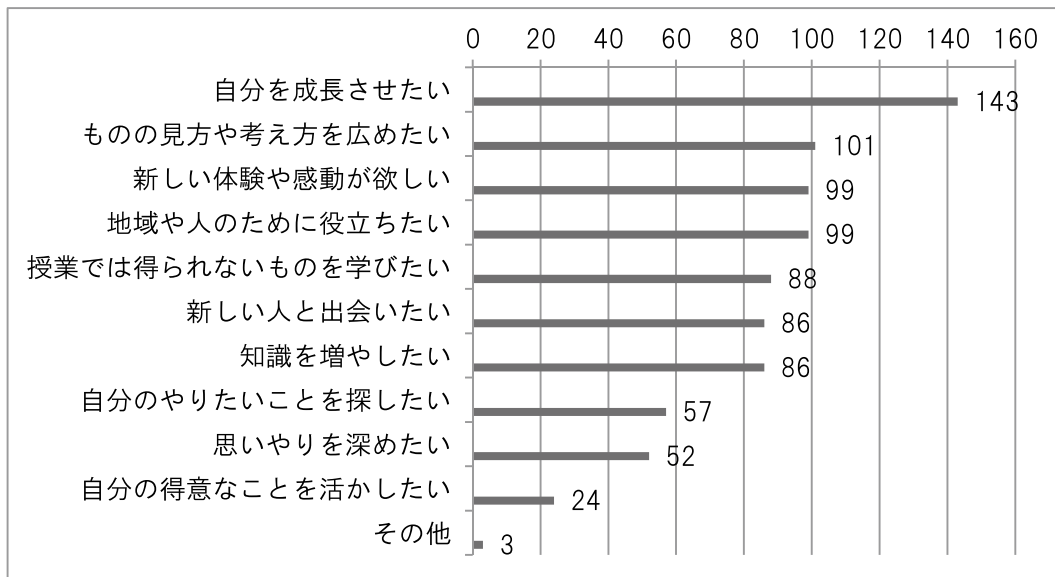
図2-2. ボランティア活動の参加希望者:3 年間の推移



(3) ボランティア活動に参加したい理由

次に、参加希望者（270 名）のみを対象に、ボランティア活動に参加したい理由について複数回答で尋ねた（図3）。

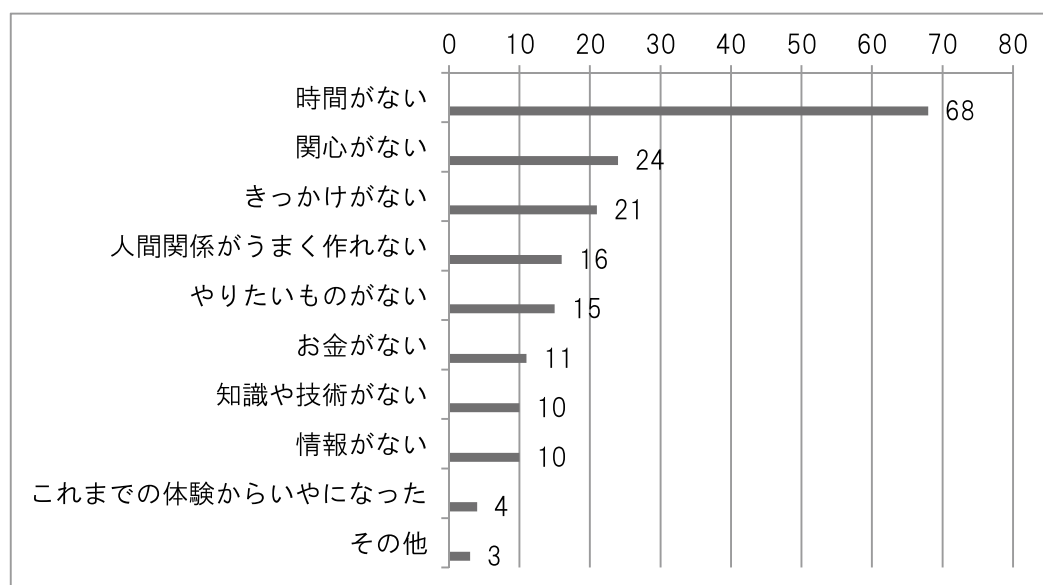
図3. ボランティア活動に参加したい理由(回答者 270 名／複数回答可)



(4) ボランティア活動に参加を希望しない理由

次に、ボランティア活動に参加を希望しない学生（115 名）を対象に、参加を希望しない理由を尋ねたところ下記のような結果となった（図4）。

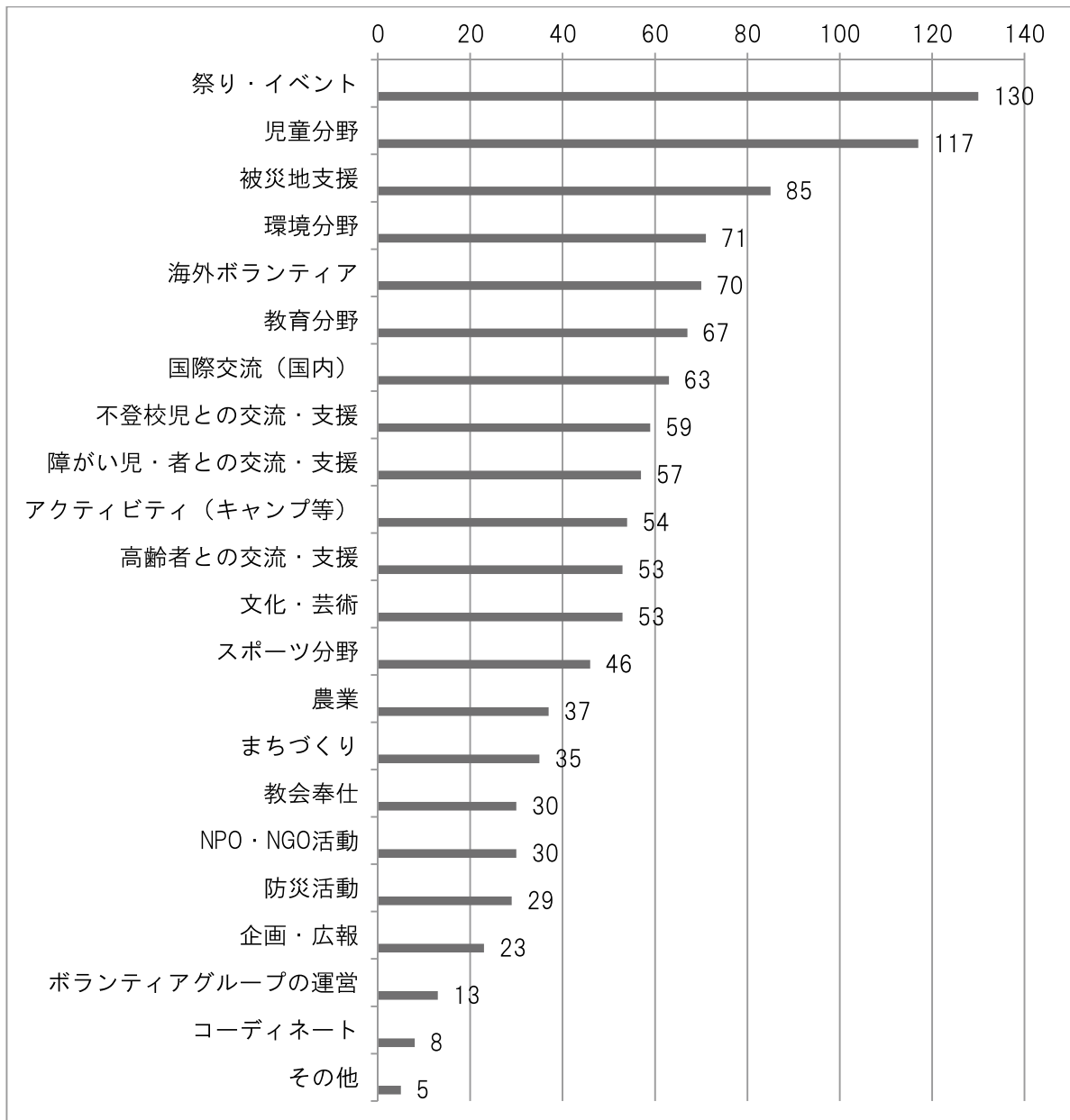
図4. ボランティア活動に参加を希望しない理由(回答者 115 名／複数回答可)



(5) 関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動の分野を複数回答で尋ねたところ（図5）、最も多かったのは「祭り・イベント 130 名」で、次に多かったのが「児童分野 117 名」であった。

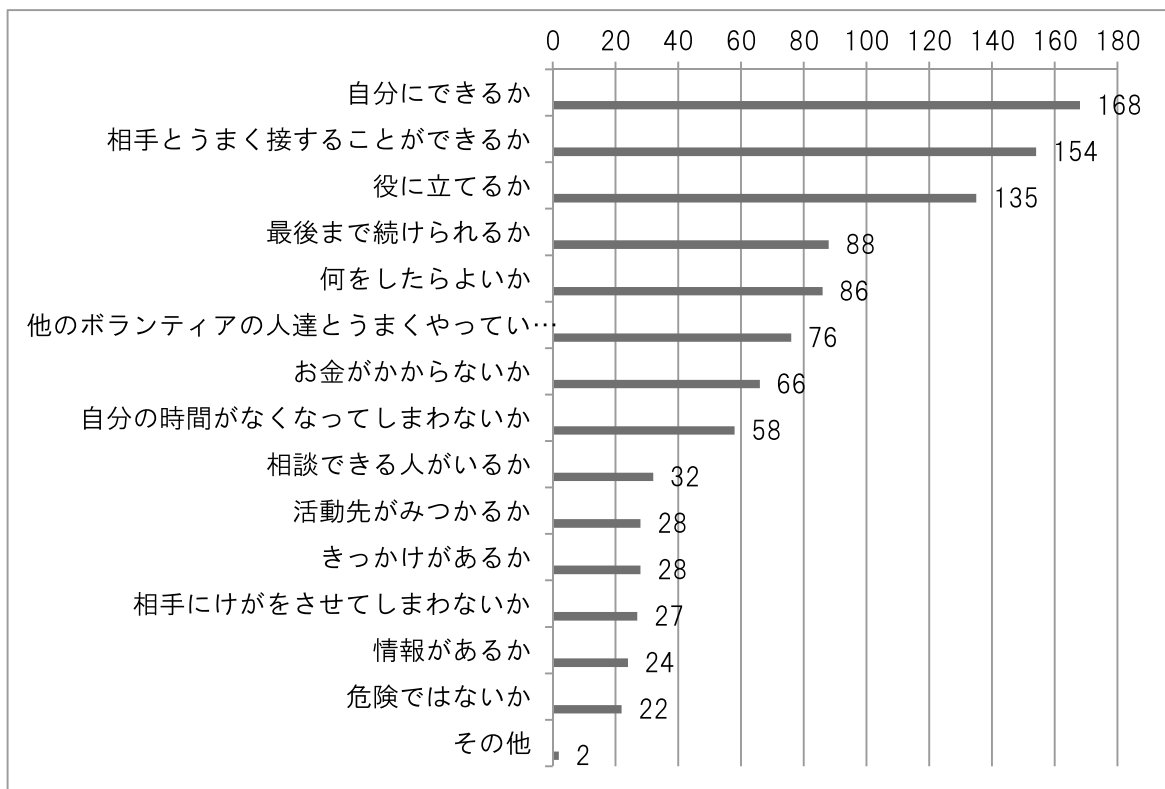
図5. どのようなボランティアに関心があるか(回答者 385 名／複数回答可)



(6) ボランティア活動を始めるにあたっての心配や不安

こちらの問いも、複数回答にて尋ねたところ（図6）、「自分にできるか 168人」「相手とうまく接することができるか 154人」「役に立てるか 135人」の3項目が上位を占めた。

図6. ボランティア活動を始めるにあたっての心配や不安(回答者 385 名／複数回答可)



(7) ボランティアセンターの認知度

ボランティア活動支援センターの存在を入学時に認知していた新入生の割合は、昨年度28%だったのに対し、今年は30%であった（図7）。2013年度の21%から比べると＋9ポイントとなり、徐々にではあるが認知度が向上していることが分かった（図8）。オープンキャンパスでもブースを設け、センターの紹介や活躍している学生達の姿を直接見てもらえるよう工夫した成果が表れているのではないかな。

図7. 入学前に、ボランティア活動支援センターを知っていたか

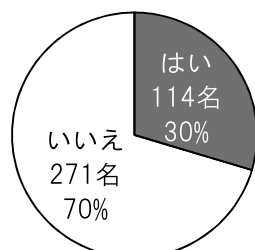
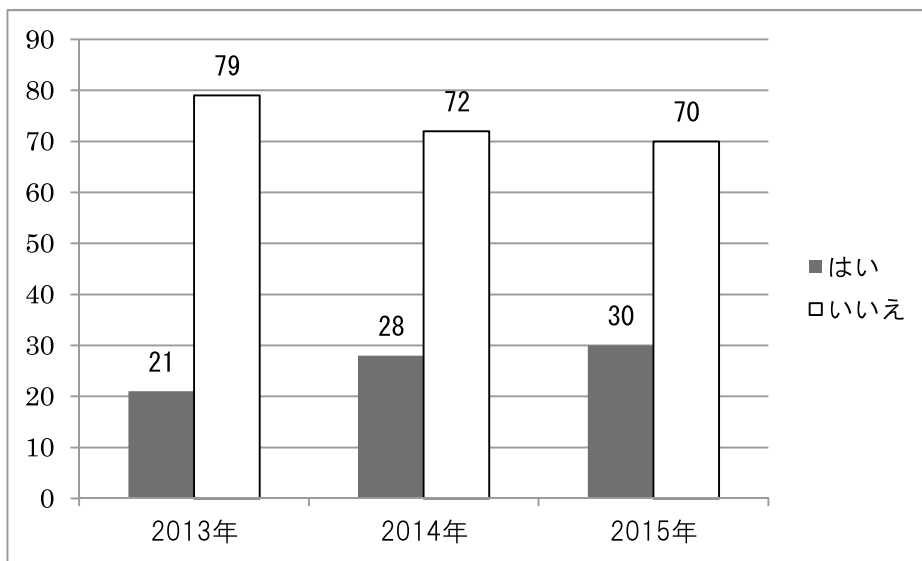


図8. 入学前にセンターを知っていた人数:3年間の推移(%)



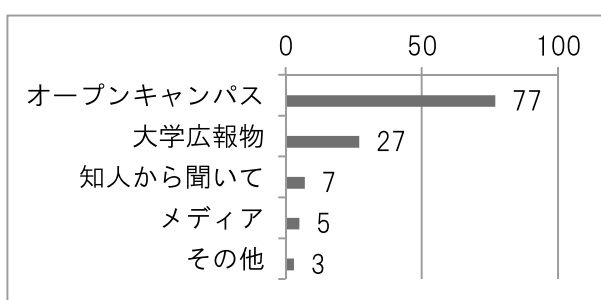
(8)入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか

図7で「はい」と答えた方を対象に、入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったかを尋ねたところ、圧倒的に多かったのは「オープンキャンパス 77名」であった。また、一人で複数回答した学生もいるが、大学広報物での活動紹介も新入生にとって効果があったことがわかる。

※この問いは、今年から新規で導入したものである。

図9. 入学前にどのようにボランティア活動支援センターがあることを知ったか

(回答者 114 名／複数回答可)



3. 考 察

本調査は今回で3回目の実施となる。そのため、経年変化や過去との比較もできるようになった。

まず、新入生の中に占める「学生時代にボランティア活動をやってみたい」と考える学生が70%と高い割合を占めていることがわかる。一昨年、昨年と比べても、年々増加傾

向となっている。理由としては、ボランティアが盛んな大学として認知度が向上しており、「ボランティア活動に取り組むためにこの大学を選んだ」というコアな学生が一定層存在していることや入学式等かなり早い段階から、聖学院大学での復興支援やボランティア活動についてのアナウンスが行われており、新入生のモチベーションにつながったことが考えられる。毎年、「やりたい思いを持った学生」の数と「実際に活動する学生」の数には開きがある。センターとしてはこのやりたいと思った学生全員が、しっかりと活動につながるよう、引き続き丁寧なコーディネートと仕組み作りが求められている。

活動への動機を見ると、3年連続で「自分を成長させたい」と考える学生が最も多く、次に「ものの見方や考え方を広めたい」「新しい体験や感動が欲しい」「地域や人のために役立ちたい」が続いている。過去に比べてもボランティア活動が地域や他者のための活動であると同時に自分自身の成長にとっても意味のあるものだとの認識が広がっていることが分かる。センターとしては、これらの学生たちのニーズと、地域から寄せられるニーズ（困りごとや学生への期待）を上手にマッチングしていくことが必要となる。特に、自分本位の活動になることなく、受入れ先にとっても、学生にとっても win&win の関係になれるよう心掛けたい。

活動関心分野についても3年連続で「祭り・イベント」「児童分野」「復興支援」について関心が高かったが「復興支援」については、過去2年に比べるとやや関心が低くなっていた。この3分野はこれまでも、学科の特色を活かせる現場でもあり、センターとしても活動先の開拓を含め活動の充実を図ってきた。引き続き、関心のある分野と活動先が一致できるよう、開拓と情報発信を行っていききたい。

また、活動への心配や不安については、他の調査同様3年連続で「自分にできるか」「相手とうまく接することができるか」「役に立てるか」の順で気になっている学生が多いことがうかがえる。センターでは、ボランティアへのはじめの一步のハードルをできるだけ下げられるよう、学生サポートメンバーと連携して、ボラTea（ボランティア合同説明会）、夏のボランティア体験プログラム、ボランティア論での情報紹介、サポメン同行によるボランティア活動体験を企画、実施している。これらの不安を少しでも下げられるよう、引き続き丁寧な取り組みをしていく必要がある。

最後にボランティア活動支援センターの認知度については、30%と3年連続で増加し、初めて30%を超えた。今年度からは、その理由についても調査したところ、「オープンキャンパス」で知ったとの回答が大きな要因となっていた。また、大学広報物で知ったとの学生も一定数おりボランティア活動が盛んであり、センターが設置されているとの認識が徐々に浸透していることを確認することができた。引き続き、ボランティアを熱心に取り組む学生の発信を通して、センターの認知度も上げていきたい。